

の高宗春宮に在し時文德皇后の爲めに建造せしか故に慈恩寺ツイエンズと名づく、永徽年中沙門玄奘更に浮圖を其の西院に建つ、高さ三百尺許、詳に三藏法師の傳に見ゆ。由來經營能く今日に至り、七層の寶塔高く半空を摩し、構築の巧妙、彫刻の精美、且つは色彩の絢爛、其の莊嚴偉大と相俟て、人目を驚かし、渡清以來始めて斯る往古の大建築物に接したり。岑參が五言古詩は、其の實況實景を寫して遺憾なし、掲げて予か秃筆を省く。

『塔勢如誦出、孤高聳天宮、登臨出世界、磴道盤虛空、突兀壓神州、崢嶸如鬼工、四角礙白日、七層摩蒼穹、下窺指高鳥、俯聽聞驚風、連山若波濤、奔走似朝東、青松夾馳道、宮觀何玲瓏、秋色從西來、蒼然滿關中、五陵北原上、萬古青濛々、淨理了可悟、勝因夙所宗、誓將挂冠去、覺道資無窮』と今は青松本道を夾み、宮觀の玲瓏たるもの無きも、當時の盛觀は今尙ほ其俤を存し、岑參か形容の誇大ならざるを認む。其他、東門外の小雁塔寺、城内の離宮、回教の清真寺、喇嘛寺等皆觀るべし。

時は正に十一月の初旬、前途は進むに隨ひ愈々寂寥の地域となる。蘭州を除いては、需用品の調辨も覺束なし。是に於てか當地に於て防寒其他の準備を爲さ